

令和6年第2回 区づくり推進横浜市議員会議（青葉区） 議事録	
開催日時	令和6年6月11日（火） 午後2時30分～午後3時50分
場 所	青葉区役所4階会議室及びWeb会議
出席者	<p>【座長】 行田朝仁議員</p> <p>【議員：6名】 田中ゆき議員、山下正人議員、伊藤くみこ議員、横山正人議員、藤崎浩太郎議員、おさかべさやか議員</p> <p>【説明局員：23名】（青葉区：23名）</p> <p>中島区長、真船副区長、青木福祉保健センター長、壺井福祉保健センター部長、網河土木事務所長、宇多消防署長、ほか関係職員</p>
次 第	<p>報告</p> <p>令和6年度 青葉区運営方針について (資料1)</p> <p>議事</p> <p>1 「令和6年度 青葉区に係る予算のすがた」について (資料2)</p> <p>2 「令和6年度 個性ある区づくり推進費 執行状況」について (資料3)</p>
発言の要旨	<p>資料1を中島区長が、資料2及び資料3を真船副区長が説明</p> <p>横山議員 予算には限りがあるわけだが、全般を通して青葉区に対して配当されている区づくり推進費をどのように考えるのか。十分であると思っているか、それとも、こういうところが足りないと感じるか。</p> <p>中島区長 区づくり推進費は、自主企画事業費や統合的的事业費、施設の管理と、いろいろある。そういう中で昨今、特に施設管理費が、電力や人件費の高騰で、契約などもかなり高いものにぶれてきているという状況があり、いかに効率的に無駄な支出を減らすかというところには苦慮しているところである。そこが、青葉区だけではなくて全ての区の課題だと考えている。</p> <p>一方、自主企画事業費について、あるに越したことはないが、やはり時代の状況などを見ながらスクラップ・アンド・ビルドをしていく。それから、いわゆる再配当でできるものは再配当のほうでやっていくなど、6年度の予算を工夫する中でサービスの質をなるべく低下させず、限られた中でより多くの事業を実施できるよう、工夫した予算である。</p> <p>横山議員 これは横浜市全体の問題にも関わるかもしれないが、区づくり推進費は使うだけではなくて予算を獲得する、いわゆる予算を生み出すといった発想も、これから少子高齢化、人口減少、税収不足の時代に入っていくため、発想の中に入れるべきではないか。</p>

	<p>そこで、前日も発言したが、ふるさと納税を活用して、青葉区の区づくり推進費の予算増額を図るといことも、取り組むべき課題ではないか。例えば青葉区産品を使って横浜市のふるさと納税の返礼品にして、そこで獲得した納税を区づくり予算に充当するなど。そのようなことを全庁的に考えて、横浜市の税収増につなげていくということも必要なのではないか。</p> <p>今、青葉区の料飲組合が区内の団体のお食事券をふるさと納税の返礼品に出そうという準備をしているが、この納税については、青葉区の区づくり予算に充当してもらおう。もちろん納税者や寄附者が青葉区の区づくり予算に使ってもらいたいという意思を表明することが必要だが、そのようなプロセスを経て区づくり予算に充当するということは新たな取組であり、これを青葉区で具体的に考えるべきではないか。</p> <p>料飲組合様がいろいろと検討いただいていることは聞いている。地域の皆様にもいろいろと工夫や協力を頂いていることに、まずは感謝を申し上げる。そして、そうした方々の生活や青葉区に活気が出るような街になるためにも、青葉区の区づくり予算に配当されることがあるとすれば、大変うれしいこと。制度的にどこまでできるかということも財政局などとも調整しながら進めていきたい。</p>
中島区長	<p>ふるさと納税の仕組みは、地元自治体と事業者の知恵の出し合いである。したがって、しっかりと汗をかいて努力したところが報われる仕組みでなければならないので、ここは横浜市の担当に私からも言うが、これは青葉区で獲得する予算なのだから、青葉区の区づくり予算に充当すべきという考え方をぜひ示してもらいたい。</p>
横山議員	<p>それと、区民1人当たりの税額に関し、資料2の7ページの一覧表について、西区や中区は人口が少ない割に税収が多いからこのようなことになるが、昼夜間人口を考慮すると、どのようになるのか。</p>
中島区長	<p>昼夜間では比較していないため正確なところは言えないが、一般的に西区や中区は昼夜間人口が100を超え、青葉区や都筑区などは非常に低いという状況である。そのような意味では、夜間人口、要は住民票上の区民1人当たりに対しては少ない。昼間人口に対してということになると、この差はもう少し埋まってくる。</p>
横山議員	<p>この表を見て考えたことは、昼夜間人口を考慮しないと、正確な区の姿をなかなか見ることができないということだから、次回可能ならば昼夜間人口も考慮してくれるとありがたい。</p> <p>次に、乳幼児健康づくり事業について、区内でお産のできる医療機関がだんだん少なくなってきており、本当に数が限られてきている。産み育てるの産みの部分でお産の施設がないとなると、30万人の人口が住んでいるのにどうなのかと思うが、そのようなことについてどう考えてい</p>

	<p>るのか。</p> <p>藤本こども家庭支援課長 確かに産む病院については減ってきているため、現在、保健師・助産師なども含めて産院を訪問し、理解してもらう活動をしている。実際に増えるというところまでは至っていないが、地道な活動をしている。</p> <p>横山議員 実際、充足しているという認識なのか。それとも足りないのか。足りないのであれば、あとどのくらい必要なのか。</p> <p>藤本こども家庭支援課長 細かい数値までは出していないため、充足しているかどうか、どれくらいあれば足りるのかについては、この場で即答することができない。</p> <p>横山議員 可能であれば次回教えていただきたい。</p> <p>最後に谷本公園の進捗を伺う。</p> <p>井波区政推進課担当課長 谷本公園について、前回報告から2筆、仮登記つきの土地の購入ができた。2筆合わせて126平米。令和5年度は合わせて3筆購入することができたため、残りは全部で9筆、0.4ヘクタールほどになる。公園について着実に取り組んでいる。</p> <p>横山議員 用地買収率はどのくらいか。</p> <p>相当進んでいると考えてよいのか。</p> <p>井波区政推進課担当課長 相当進んでいる。地図で見ると、ほぼ、一部のブロックに固まって残っているため、まだ物が収まる形にはなっていないと聞いている。</p> <p>横山議員 了解した。</p> <p>藤崎議員 資料3の14ページのキャラバンメイト連絡会について、年に2回開催されていて、各地域からメイトさんが集まってワークショップを開催して好評な部分もあるが、一方で少々物足りないという意見もある。職員の皆さんも参加して場を仕切ったりするが、ワークショップを開催してもその後はどうなのか、なかなか具体的に発展的なものにつながっていく感じがなく、手応えが得られないという意見もある。一方で、メイトさんになってからは、全然縁がなかった人たちが接点を持てるというメリットがあって、メイトさん同士のつながりができていることは良いが、その次のステップになかなかつながらない。認知症の方も増えているが、認サポを受けている人の数がどんどん増えている状況である。ケアプラザ、地区センター等をはじめ、いろいろな形で認サポを実施していて、認サポを受けた人も増え、メイトさんも増えている。あと一步何かあるか、次に進めないかと考えている。今後どうするのかという考えがあれば、教えてほしい。</p> <p>岸田高齢・障害支援課長 次回の会までにそのような意見を集め、具体的な対策に展開していきたい。</p> <p>藤崎議員 課題は共有していることは理解した。ぜひ何とかうまくやってほしい。チームオレンジの取組などはどうしても取組が独立して存在しやす</p>
--	---

	<p>ということがあり、一方で認知症のプロジェクトは様々な取組がこれからますます拡充されていく。緩くてもいいから広いつながりと、一方では活発な動きの双方が必要ではないか。現在、年2回、2時間ぐらいのキャラバンメイトさんの集いを地域の方が実施しており、それを次のステップにつなげられる工夫や組立方などをぜひ検討していただきたい。</p> <p>29ページの区マスタープランについて、2、3年かけて改定作業をしていくが、どこかのタイミングで現在のプランの振り返りとか評価は行うのか。</p> <p>井波区政推進課担当課長 区マスタープランに関して、市全体のプランができてから、大体2年から5年ぐらい、青葉区は4年ぐらいで改定していた。ただ、今回は区マスの前に、地域別のもう一層プランが入るため、どういう形で進むか不明であり、待っているところ。</p> <p>マスタープランの策定のスケジュールを決めているわけではないため、前回の評価をどうするか。これからの課題になるが、現状を評価する段階では、形としては達成できた、できないということがある程度分かる。どういう形で進めるか、これから検討していく。</p> <p>藤崎議員 現行のプランだと、2035年が想定される将来像としてある。策定が2017年だから、18年先を見据えていて、結構長いスパンである。常に随分先の話を10年ごとに見直しているとなると、想定もしづらいし、評価もしづらい。区マスはどのように積み上げていくのかが気になる。どうするのか。</p> <p>井波区政推進課担当課長 今回、全市マスタープランで新たな将来像が描かれる中で、本区の将来像というのを描き直す。その将来像は、現行の計画が終わっていない中での評価になるため、現状がどういう状況にあるかといったところはしっかり見据えるが、2035年に、今の段階で、来ているべき到達点に来ているか来っていないかといったところの評価がやはり難しい。お話し of 課題は、策定する中でいろいろと気をつけながらやっていかなければならない。</p> <p>藤崎議員 どういうふうにするかということは、我々としても課題だと捉えなければならない。地域の人にヒアリングやアンケートを実施すると、地域の人たちも、答えが、どう反映されて、どうなっていくかということに気にする。この点は、非常に曖昧に進みやすい状況にある。仕組みの都合だと思う。そうであるならば仕組みをもう少しどうにかすることを考えなければいけない。そういう意味で評価と最初に言ったが、達成したかどうかだけではなくて、そもそも今のこの進め方をずっと続けていくことでいいのかということも考えなければならない。昔は伸びていくだろうという想定をしていたが、今は縮小していくだろうという想定にし</p>
--	---

	<p>なければいけないし、一方では人口を増やす努力を一生懸命するという想定の下に、理想と現実のギャップの中であらゆる計画をつくらなければいけない。そういう形成プロセスにおける課題なども、こういった場などで何らかの形で教えてもらえると、我々も区マスや都市マス全体を含めてどういうやり方がいいのかという議論ができる。その辺も時が来たら共有していただけたらありがたい。</p> <p>おさかべ議員 子育ての視点から幾つか質問させてほしい。まず、今年実施する青葉区の美しが丘周辺のモデル事業に関し、小学校の朝の居場所づくりについて。こ青局からお子さん向けの説明資料が届いたが、やはり朝、保護者が一緒に来所するという形になると考えられる。モデル実施する上でこの施策の課題だと考えるが、朝、保護者との来所はモデル実施だから最初はこういう形なのか、今後も続くのか、そのあたりを教えてください。</p> <p>佐藤学校連携・こども担当課長 まず、美しが丘公園周辺で集中的に見せるということの中で、美しが丘東小学校と美しが丘小学校がエリア内にあるということで、全市でモデル2校という形になっている。今度の日曜日に保護者向けの説明会が行われる中、そこでのご意見を聞きながらということになる。私どもも地区担当を中心に連長や主任児童委員の皆さんなど、いろいろな方のご意見を伺っているところ。例えば、元気に遊ぶことができる子どもばかりではないとか、家を出る時間が早くなると朝ご飯が早くなり、お昼までもつだらうとか、いろいろなご意見を頂いている。まずは実施しながら区でできることは何かということをも局と共有しながら進めていきたい。</p> <p>おさかべ議員 今回7月の実施に関し、これの効果検証について、アンケート調査をするなど、何か考えはあるのか。今回の実施を、今後展開していくにあたり、どのように形にしていくのか。</p> <p>佐藤学校連携・こども担当課長 局の説明の中では、そこまでまだ聞いていない状況である。</p> <p>おさかべ議員 モデル実施なので、ぜひ効果測定していただきたい。次にどう展開していくかということも数値でもきちんと測っていただきたいので、アンケートなどを検討してほしい。</p> <p>石島土木事務所副所長 もう一つ、ログハウスも同時に実施している。主に空調の設備だが、ほかにも歩行空間の整備などの記載があるから、どのように実施しているのか教えてください。</p> <p>石島土木事務所副所長 歩行空間について、美しが丘公園の周辺には街路樹の根上がりなど、歩きにくさというものがあるため、そちらを解消したい。また、安全面として車止めなどの安全施設を整備することも考えている。地域の方の</p>
--	---

	<p>意見を聴きながら進めていく予定である。</p> <p>おさかべ議員 中島区長 それはログハウスの中というより、外ということか。</p> <p> 今の話は歩行空間で、美しが丘公園周辺の歩道の話である。ログハウスについては、みどり環境局が計画的に修繕を行っているが、これから照明のLED化を予定していると聞いている。また、この美しが丘公園の周辺が子育てしたいまちの推進モデル地区にあるため、このログハウスの活用方法についても、今後、みどり環境局や関係局のほうで検討を進めていくと聞いている。その際には、あそこも割と人気のある施設で、順番待ちも出るようなこともあるため、より安全で遊びやすい施設になるようにしてほしいということに関係局に要望したいと考えている。</p> <p>おさかべ議員 私も何回かログハウスを利用した。青葉区には、せせらぎとか、じゃぶじゃぶ池とか、夏に水遊びできる場所が公園に一つもない。暑い中で、あそこが唯一、室内で涼しく遊べる場であり、非常に貴重であるため、ぜひ大事にしていきたい。</p> <p> それから、周知もしてもらいたい。私は美しが丘公園に遊びに行って、何だこの小屋はと思って初めて知った。全然違う場所に住んでいると気づくことがない。特に奈良町のほうに住んでいる方は絶対気づくことはないので、その辺の周知もぜひしていただきたい。</p> <p> あと、予算委員会のときにこども青少年局に要望したが、あの辺り一帯を子育てしたいまちにしていくのであれば、夏の水遊びイベント、例えば大きなビニールプールを開いて水遊びイベントをやってもらいたいということを要望し、こども青少年局から前向きに検討するという言葉を頂いているので、ぜひ青葉区にもお願いしたい。</p> <p> 次に子育て支援ネットワーク連絡会について教えてほしい。この具体的な活動内容と、それによって期待される効果を教えてほしい。</p> <p>藤本こども家 庭支援課長 子育て支援ネットワーク連絡会の目的に関し、まず会の構成について、これは2部構成になっている。全体会という、全体を網羅している方々が集まり各地区での課題を集約していく大きい会、それから、11か所に分かれて、大体地域ケアプラザのエリアごとになるが、身近なところでその地域に合った課題について関係する方たちが集まって話し合いをする会、の2部構成になっている。その11か所に分かれて開催する会は、昨年ぐらいからだんだん継続的に開催できるようになっている。その会の中で保健師、助産師、ワーカーから集めた地域の情報やデータなどを見ながら、このエリアの課題としてこのようなものがあるなど、肌感覚で学んだことを地域の方にお伝えしている。</p> <p> 昨年の例だが、あるエリアではイベントを開催するとお子さんたちがすごく集まってくるが、お母さん同士がつながる機会が少ないことに気づいた支援者の方や、何となく孤立している人が多いという地域の課題</p>
--	--

	<p>に気づいた地域の支援者さんたちがいた。各地区の課題を集約し、区の次の施策をどのようにしていくか、あるいは、今ある施策の展開方法を考えることを繰り返している。これを継続し、事業の見直し、拡充、スクラップなどを検討していく場としている。</p> <p>そういった意味では、地域自体を考えるということを、行政のみならず地域の方と一緒に子育てを中心に考えるという仕組みが構築されつつある。そこが効果だと考えられる。</p> <p>おさかべ議員 そうすると、各課題が上がってくると、課題の分野分けができてきて、それに対する解決策というのもできてきて、こういう問題が出てきたらこうするというような、フォーマットのようなものが出来上がるというイメージか。</p> <p>藤本子ども家庭支援課長 まだスタートして間もないため、そこまで具体的に、これがあつたらこの施策ということにはなっていない。実際にそこで上がってきたことについて、例えば障害の理解とか、発達についての理解が必要だという意見が出たら、それに対してこういう新しい事業を展開していこうかと、意見を踏まえて区の活動に生かしてきてはいるが、それほどきれいにフォーマットにはなっていない。</p> <p>おさかべ議員 どのような課題が出て、それに対してどのように解決していくのかなど、幾つか一覧を見せてもらえると、何かつかめていくので、次のときはぜひお願いしたい。</p> <p>富澤総務課長 あとは、昨日、横浜市管工事共同組合さんから要望を頂いたが、地域防災拠点の応急給水訓練や防災訓練などを実施しているそうだが、訓練するときに必要なものがどこにあるのか分からないと聞いた。防災倉庫の中が整理されておらず、毎回困るとい聞いた。この状況は、実際に災害が起こったときに非常に困る。把握しているか。</p> <p>おさかべ議員 倉庫に必ず備蓄品の配置場所の看板をつけておくなど、何か統一したことを区から伝達して、一括して実施することは難しいか。</p> <p>富澤総務課長 拠点によっては配置図を作成しているところもある。独自に物品を導入していたり、備蓄庫の広さや形状が異なっていたりしているのが実情。運営委員の活動状況もそれぞれで、統一的に実施することは現実的には難しい部分がある。一方で、発災したときにどこに何があるのか、ということでは、本当に困ってしまう。区職員も参与として各地域防災拠点に入っているため、課題意識を持って話をしていきたい。</p> <p>おさかべ議員 ぜひお願いします。</p>
--	--

	<p>最後に医療的ケアと障害児の保活について聞く。予算委員会において園へ見学に行った時に、かなりひどい言葉を投げかけられる、うちではもう受け入れられない、この子は家で見たほうがいいのかなど、傷つく言葉を言われるという保護者さんからの声があった。現在、こども青少年局がそれに対する推進プロジェクトを進めている。医療的ケア児はサポート保育園ができて看護師さんがいるところなので、行政側も伴走支援しているが、障害児に関しては支援しないケースが多いと考えられる。実態はどうか。保活についてどのくらい伴走されているのか。</p> <p>佐藤学校連携・こども担当課長 基本的に障害児さんに関しては、入所の申込みをする前に、必ず区役所にご相談くださいという案内をしている。それに基づいて窓口で個別の相談を行っているが、やはり実際に園に通えるのかどうか、本当にこの園でいいのかなど、保護者さんが感じることがあるので、「必ず園の見学をしてください」というアドバイスはしている。場合によっては、通える範囲の園に区役所の職員が園の実情なども聞きながら、間に入ることもある。青葉区としてはなるべく一人一人の障害の状態を聞きながら、寄り添った対応をしている。</p> <p>おさかべ議員 取りあえず推進プロジェクトができて、新たな周知がこども青少年局から来ると思うので、引き続きお願いする。</p> <p>山下議員 まず、57ページの災害時のペット対策について、正月早々大きな地震があり、区民、市民、国民全体として災害に対する意識が高まっている。ペットの件数が非常に多いことが青葉区の特徴だが、同行避難などその辺が非常にネックになっている。特に風水災害に関して、ペットがいるとどうしても避難所に逃げてくれない。これに対してペットを預かってくれる動物病院などの登録があるが、青葉区はなかなか伸びていない。現状はどうなっているのか教えてほしい。</p> <p>中島区長 現在、青葉区内の獣医師会様でそうした受入れを行っている病院は5病院ある。</p> <p>山下議員 これは獣医師会のほうの課題になるが、これをぜひ進めるようにしてほしい。これは特に青葉区のようにペットの登録件数が多い地域の特徴になるため、区づくりを使って、また区局連携で局のほうに動いてもらいたい。獣医師会さんから言われることは、医療局が何度言っても災害時の協定を結んでくれないということがあり、区のほうからも、青葉区の事情があるので、全市的にいきなりやることは難しいにしても、モデル事業で特にペットの件数の多い青葉区がまず一番に手を挙げていくべきではないかと考えるが、どうか。</p> <p>中島区長 青葉区は18区中でも大変ペットが多いところであり、ペットを本当に</p>
--	---

	<p>家族として暮らしている方が多いと認識している。そういう中で、ペットの安全、それからご本人の安全を考えると、風水害時に安心して避難できる環境をつくっていくということはとても大切なことだと考える。その中で、たった5つの動物病院で受け入れるだけでは、心配である。現実には、近くにないとなかなか行きづらいこともあるので、より多くの動物病院などペットホテルも含めて、受入れ先が確保できることがいいと考える。局ともしっかり話をして、局のほうで結べないということに関し、何が理由なのかということも確認した上で、何か青葉区としてできることはないかということを考えていきたい。それから、現在もペットホテルや友人・親戚など、日頃から一時預かりできるところをぜひ確保してほしいということ、飼い主の皆さんにはお願いしているところ。まずそうした周知をしていく中で、ペットとご当人の安全確保に向けて取り組んでいきたい。</p>
山下議員	<p>よろしくお願ひしたい。これは飼い主さんの意識もある。例えばイエローゾーンなどに入っているところは、ふだんからそれは心がけていたいただきたいし、もう一方でペットを飼うマナーの問題も、受入れ側に出てくる。私の大事なお犬様のような扱いをすると受け入れる側も嫌になる。マナーについて最近多い苦情はロングリードについてだ。ワイヤーで見えない。飼い主が道路で伸ばしてしまうから、下手をすると自転車がかき込まれてしまう。ロングリードの扱い方も適正なものがある。この指導はしているのか。</p>
佐藤生活衛生課長	<p>犬のマナーについて、やはりロングリードの問題で苦情などを頂くことがある。その場所や時間帯が分かれば、公園のほうに巡回して、そういう方を確認したら指導する。見つからない場合は、公用車でその周辺に放送をかけながら適正なお散歩マナーについて呼びかけるといった啓発活動をしている。</p>
山下議員	<p>行っても多分見つからないと思うが、やはりふだんからいろいろなところで啓発してほしい。特に道路は危ない。本当に犬も人間もけがをして危ないからぜひお願ひしたい。</p> <p>それと、先ほどの歴史ガイドブックの件だが、実は青葉区内にもかなりの歴史的な遺物があるが、多くは民地である。民地に置いてある。この民地に置いてある方々に対してのアプローチはどうなっているのか。というのは、早渕川沿いの平川神社の参道に当たるところに薩摩灯籠という大きな灯籠があったが、いつの間にかなくなっていた。どうしたのか聞いてみると、道路の拡張工事で撤去したと言われたが、調べてみると、どうも違うらしい。これは誰に聞けばいいのか。ガイドブックに載っているものが、もうないと言われると困ってしまうが、この辺の認識はどうなっているのか。</p>

松本地域振興課長	<p>今回のガイドブック作成については、1年かけて議員の方が現地を確認に行き、民地のところは民地の方に伺ってしっかりと調整したと聞いたが、もう既に移動したものがあつたということならば申し訳ない。</p>
山下議員	<p>ガイドブックを今確認すると、載つていなかった。ただ、歴史散策の中で、江戸時代に薩摩屋敷に奉公した女中さんがもらひ受けたということがいろいろなホームページに出てくる。大分大きな灯籠がいつの間にかなくなつている。どうもそこは、我々が見ても民地なのか何なのか分からない。今すぐ回答を求めないが、ここに載つているものも含めて、こういったものが急になくなつてしまつたら困つてしまうので、やはり地権者の方とコンタクトを取つておかないとまずいのではないかと。ぜひいろいろな対応をお願いしたい。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>最後に、シニアの社会参加がeスポーツ拡充になつているが、eスポーツは増えているのか。どのような場所で行つているのか。Wi-Fiがないとなかなか難しいが、その辺の問題や課題はないのか。</p> <p>eスポーツに関しては、先月、「始め方講座」という講座を開催し、実際の機械の設置の仕方から盛り上げ方等を見ていただいたり、持ち帰つていただいたりした。ケアプラザ等の職員を対象にした体験会なども5月の末に行つた。始め方講座の後に、実際にご自分の家で機械を買つて地域の方を集めて会を開いたということについては2件ほど報告を受けている。全体としてどの程度かだが、始め方講座を受けたという名札みたいなものをもらつと、いろいろな地域に行つて自分がこういう講座を受けたからぜひやりませんかという名刺代わりになるということらしいので、そのようなものもつくつて配布している。したがつて、具体的な件数としては2件しか押さえていないが、実際はもっとあると考えられる。</p>
山下議員	<p>参加人数が少ないと思う。これはシニアの社会参画の事業として実施している。eスポーツのいいところは、子供と高齢者が一緒のステージでできるということだと思つたから、ケアプラザなどの施設で実施しているとなかなか広がらない。そこは少し工夫してほしい。eスポーツはスポーツなのか。スポーツ協会に入れる件になるのか。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>その定義ははっきりとしない。今年からねんりんピックの種目には入つているため、ある意味スポーツと同等と捉えられていると認知している。</p>
山下議員	<p>最後だが、eスポーツに限らず、毎回こういうことをしたいと言つている。青葉区はこれだけ税金を払つて、30万人の人口がいても職員数も少なく、皆さん大変だということは承知しているが、区民からすると、区民サービスが低いと考ふる。税金ばかり取られて施設がない。特にスポーツ協会の方々が言われることは、参加人数が多いにもかかわら</p>

	<p>ず、施設は1区1館制度になっている。これは同じ税金を払っていて、特に高額納税者が多い町にとってはやはり不公平である。この区の特性を生かして、いろいろな工夫も必要であるし、谷本公園に関してはまだ整備中の状況であるため、やはりもう少し青葉区民にとって青葉区に住んでいてよかったなと思えるような予算の分捕りをぜひお願いしたい。区長、いかがか。</p>
中島区長	<p>本当に高額納税をしている方がたくさんいる、そして人口も多いという中ではあるが税金の再配分であり、そのとおりに分けるのであれば再配分にならないので、区民の意見を伺いながら、要望を局からの再配当事業につなげていけるよう、私どもも働きかけていきたい。</p>
山下議員	<p>よろしく願います。</p>
田中議員	<p>まず、赤ちゃん教室について、赤ちゃん教室の保護者の方へ案内はどのように行っているのか。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>赤ちゃん教室の案内は、ありとあらゆる場を通じて行っている。まず、第一子訪問であるとか、こんにちは赤ちゃん訪問、これは第二子も含めて今のところ95%以上の訪問率があるので、そこで周知している。それから、乳幼児健診やホームページなど、そのようなところで周知している。</p>
田中議員	<p>会場と赤ちゃん教室のお知らせを見ると、対象町名と会場がリンクしており、例えばどこどこ町の方はこの会場ですというようになっているが、これは案内するときには、どのように利用方法の説明をしているのか。参加会場は1か所お選びくださいともあるが。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>町ごとに分けており、チラシにこの町の方はこちらというような案内をしている。その理由として、一つは人数があふれないということと、エリアで顔見知りになってほしいということを目的としている。地域の方がそれぞれの赤ちゃん会に応援に入っている。そういう方とのつながりも意識してエリアを分けており、そのような周知をしている。</p>
田中議員	<p>小学校に上がったときに同じ小学校区のお母さんと出会えない場所になってしまっていて、別のところがいいという方が中にはいる。例えば青葉台2丁目の方が榎が丘西自治会館であるのに、一緒の方が田奈や榎が丘であるなど。松風台の一部は大丈夫だが、そこの方たちはどちらかというとな青葉台1丁目の方とか、もう少しこちらのエリアに来たいというような思いがあるなど。坂が多くてまた遠くて行くことが大変など。このような課題はどうしたらいいのか。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>必ずそこしか認めないということにはしていない。できればそちらのほうへという希望するところにも案内をしている。しかし、赤ちゃん教室だけが地域の出会いの場ではないため、ラフールや、子育てひろばな</p>

	<p>ど、子育て支援者が実施しているような会場を全て含めて、その地域の中で生活できるよう、案内している。</p> <p>田中議員 本当に子育ての集まりはこれだけではないと思うので、柔軟に対応していただくようお願いする。</p> <p>次に青葉スポーツセンターの利用に関し、この春からじゅうたん部分の靴の履き替えについて、はだしではなくなったということを皆さんは喜んでいる。ただ、女性の利用者の方から時折、お手洗いのサンダルに履き替えることが不衛生な感じで気持ちが悪いと意見をもらう。ほかの施設に行くと、靴を履いたままトイレに入ることができるサンダルがあるという話を聞いている。そのような声が指定管理者か区役所に上がってきていないか。</p> <p>松本地域振興課長 よくスポーツクラブなどにある運動靴を履いたまま履けるスリッパのことだと思うが、その要望は伺っている。現在、スポーツセンターと調整を図っている。</p> <p>田中議員 全てに対応することは大変だが、拾い上げてくれてありがたい。</p> <p>次に、連節バスが導入され、こどもの国駅のバス停を使う方が増えてきたが、地域の方から、夏の暑いときには少し上屋があったほうがいいとか、バスを待つときにベンチがあったほうがいいなどの声がある。東急バスなどとのやり取りもあるが、現状としては増えてきているのか、そういう声が上がってきているのか。</p> <p>井波区政推進課担当課長 連節バスの導入について、日体大から奥のほうにまた別のバスを通し、こどもの国駅のほうに回るような路線をつくっていくという、改変を行う。都市整備局から、現状、1か月少々経過したが、利用者が逆に不便になってしまうなど、そのような感触はないと聞いている。ただ、数字は、半年後にまた地域に説明するため、東急バスとこれからきちんとお互いに把握していく作業をするとも聞いている。</p> <p>田中議員 これからだと思うが、この地域の方たちとのいろいろな話合いの中でこういう結果になっているので、ぜひ声を拾い、必要な対応があったときにはお願いしたい。</p> <p>最後に、この区役所内に関し、1つは区役所の中の美化について、区役所の建物と公会堂の間に古布の回収と雑誌の回収ボックスがあり、時にその横に古着のごみ袋の山が積んである。もう一点、区役所の横から入るときに、小型家電を置く場所がすごくあふれてしまっていることがある。そこは建物の中なのでまだいいが、外の部分は放火とか安全面で危ないのではないか。そのようなチェックは随時行っているのか。</p> <p>今井資源化推進担当課長 回収ボックスについて、定期的に資源循環局の青葉事務所が回収を行っている。実際に青葉区は持ってくる方が大変多く、すぐあふれてしまうことが多い。その際は区役所から連絡をもらうし、定期的に行ってい</p>
--	--

	<p>る。すぐに取りに行くようにしている。</p> <p>田中議員 見ていてやはり大丈夫なのか、美的にはあまり美しくないと考える。小型家電のところも雪崩が起きそうになっているときもある。あそこはすごく狭い。何か置けるようなものを考えてほしい。</p> <p>最後に、区役所1階の女子トイレにはDV相談など困り事相談の小さいカードが設置してあるが、男性トイレはどうなっているのか。私は入れないので分からないが。</p>
	<p>富澤総務課長 男性トイレには、小さな案内をシールのようなかたちで貼っている。</p> <p>田中議員 区役所のみならず、地区センターやスポーツセンターなど男性も多く利用するところで、女性だけではなくて男性でも困難を抱えている方はとても多い。カードはコスト面で課題があるが、そのシールの周知などを地区センターやスポーツセンターなど、あらゆる公共施設で進めてほしい。</p>
	<p>伊藤議員 まず、子育ての関係だが、5ページの子育て相談のひろばについて、新規事業で5月に実施したが、新規で実施した効果等、また新たな課題などがあれば教えてほしい。</p>
	<p>藤本こども家庭支援課長 この「にこにこ」の活動だが、子育てネットワーク全体会で課題になり、新たに事業化したものである。この事業の進め方としては、1歳半健診において少々言葉がゆっくりだとか、少し心配だとかお母さん方の不安に対して、2歳頃に保健師がフォローしている。そのフォローの電話により、訪問することもできるし、電話相談もできるし、面談という形で来てもらい相談もできる。しかし、そのようなところに躊躇する方が、何人か集まって開催する会があるということで誘い、15組ぐらいの定員で開催する仕組みになっている。</p> <p>実際に開催してみてどうだったかという、まだ1回目なので効果がどのくらいあったかなどという大きい評価はできないが、参加したお母さんに聞いたところ、個別の相談につながった方もいる。また、この会で関わり方、遊び方、子供の特性に合わせた声のかけ方など、具体的な遊びを展開している。フォローのスキームに乗ってこなかった方も、家に持って帰って遊びを展開できるという、日常生活の継続性という点を狙っている。今回はまだ1回実施したところなので、生の声は拾っている段階である。</p>
	<p>伊藤議員 できるだけ早い時期にお母さんの不安や悩みを救い、お子さんを支援していくことにより、お子さんも自分らしくいろいろな成長をしていくことができるので、しっかりと取り組んでほしい。</p> <p>次に8ページの30周年として、親子が歌やお話を通して親交を深めるという事業について、具体的にどのくらいの規模感で、どういう形で人</p>

	を集めて実施するのか。
佐藤 学校連携・こども担当課長	まだ具体的には決まっていないが、たまプラーザエリアの広場で、東急さんと一緒に何かできないかということを考えている。イメージとしては、公会堂のような広いところではなく、イベントの中の一部としてやっていくことを今は想定している。
伊藤議員	また具体的に決まったら教えていただきたい。 次に13ページの民生委員について、今、欠員が19地区ある。欠員のところにはいろいろな支援をしているということだが、具体的にどのような形で支援を行っているのか。
大崎福祉保健課長	民生委員の支援に関して、特に見守り活動について、OBの方や地域の方々が見守り活動を手伝うことができる場合には、その見守り活動に対して補助金を出す。欠員地区の負担が少なくなるように、近隣の地区の民生委員の負担が少なくなるような支援を行っている。
伊藤議員	そうすると、OBの方とか見守りする方、民生委員は年齢制限があるが、その辺はやはりその制限のある方がやっているのか。
大崎福祉保健課長	サポーターの方に関しては年齢制限等を設けていない。そのような点で75歳以上のOBの方々が手伝っている地区もある。
伊藤議員	現状以上に、この2～3年後を心配している方が非常に多い。もうあと1年だ、あと2年だという方がいるため、そこに対する対策もしっかり考えてほしい。 あとは、民生委員の方自身が集まっていろいろな説明とか協議をしているが、ご自身の職務の範囲が何となくよく分かっていない。例えば災害が起きたとき、発災時にどこまで高齢者の方の面倒を見ればいいのかがよく分からないという方がいたり、助けに行かなくちゃいけないのかという話をしている方もいる。逆に高齢者の方のほうも、助けに来てくれるのは民生委員であると勘違いしている方もいる。いろいろ周知はしていると思うが、改めてその辺のところを見据えながらお願いしたい。 もう一点、図書館に関して、今、図書館ビジョンができ、4月から調査が始まっている。今回の調査は、全区の中で5館実施している。古い順ということから青葉も入っている。4月は図面上の調査だが、5月から具体的な現地調査が始まっている。その調査はどのくらい進んでいるのか。
佐藤 学校連携・こども担当課長	調査が入っていることは認識している。しかし、具体的にどのようなスケジュールかというところまでは、教育委員会のほうから情報をまだ頂いていない。
伊藤議員	多分、5月から各地区の状況を現地で、図面上だけではなく、ほかに代替地があるかどうか、別の施設と一緒にできるかなど、様々なところの調査を始めるということだろう。8月からは再整備の方向で考えてい

	<p>くので、例えば地元の状況とか、そういうことをしっかり調べていくと聞いている。区民の方々の要望や声をすくい上げ、教育委員会に上げていく状況をつくり、青葉の図書館としてもよりよいものをつくっていきけるよう、対策を立ててほしい。</p>
座長	<p>それぞれのセクションでいろいろな仕事する中で、やらなければならない仕事は当然やっているが、ある程度の無理難題というか、幅を持って仕事をしていることも分かる。一方で本来業務とは違うシャドワークというもの、ケアマネさんの話などにある。区役所の中とか行政の中でこのシャドワークに関して調査して確認するというをやっているのか。本来業務は当然だが、それ以外のところで時間が取られてしまっているということが、ほかの事業、局などに聞くとあるという。これは例えば青葉区役所の中で、それが分かったからといってすぐにクリアできるわけではない。シャドワークに関する確認などをしたことがあるか。</p>
中島区長	<p>シャドワークをしているかどうかという調査をしたことはない。一方、行政の仕事というのは、とても幅が広がっているので、そういう意味では、どこが本来業務でどこがシャドワークかというところをまず整理するところからやらないと、職員の方の多くが、これは本来業務かシャドワークかということを意識せずにやっている可能性がある。調査をするのであれば、まずはそのところをもう一回棚卸しした上でやっていく必要がある。</p>
座長	<p>多分、その辺はやっているのだろう。ケアプラの人もやっているし、福祉系の皆さんは見えないところを相当やっているはず。それでこの街はもっていると感じている。検討してほしい。今後のためにもなる。</p>